

妊娠中の母親の喫煙、出生後の子の家庭内喫煙と う蝕との関連

【背景】

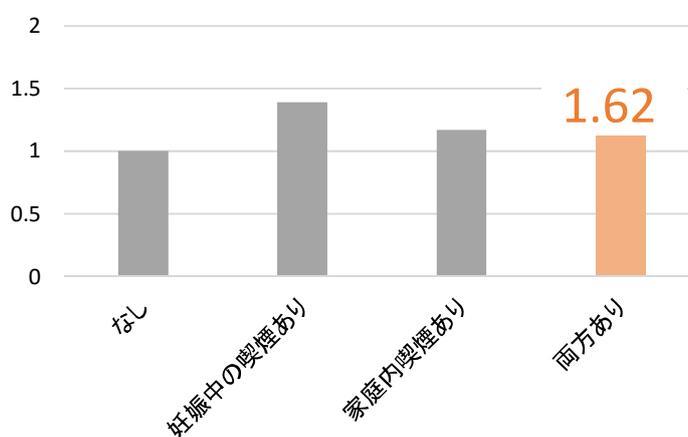
受動喫煙がう蝕に関連しているのかどうかを調べた研究は、世界的にみても、あまり存在しません。今回、九州・沖縄小児健康調査のデータを活用して、母親の妊娠中の喫煙や、出生後の子どもの家庭内喫煙と、3歳時のう蝕との関連について解析しました。

【方法】

調査に参加いただいた6575名のうち、今回の解析に使用する変数に欠損のない6412名の小児を対象としました。う蝕のデータは3歳児健診の結果を質問調査票に転記頂くことで得ました。母親の妊娠中の喫煙と、出生時から3歳時点までの、家庭での受動喫煙状況について、質問調査票でご回答頂きました。性別、月齢、居住地、母乳摂取期間、歯磨き頻度、フッ素の使用、歯科定期健診、両親の教育歴、家計の年収を交絡因子として補正しました。

【結果】

妊娠中の母親の喫煙及び、出生後の家庭内喫煙が両方とも無いグループに比較して、妊娠中の喫煙のみあったグループでは、39%、出生後の家庭内喫煙のみがあったグループでは、17%、う蝕の有症率が上昇していました。また、母親が妊娠中に喫煙しており、かつ、生まれた後、家庭内で受動喫煙があったグループでは、う蝕の有症率が62%上昇しており、これは統計学的に有意な関連でした。



【結論】

母親の妊娠中の喫煙や、子の家庭内喫煙は、乳歯う蝕と関連があるのかもしれませんが。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y, Nagata C, Furukawa S, Arakawa M. Association of prenatal exposure to maternal smoking and postnatal exposure to household smoking with dental caries in 3-year-old Japanese children. Environ Res. 2015; 143: 148-53.